

駿河ほねほね団活動報告

高田 歩・高山達子



骨格標本を作製している様子

2月に入り本団体に2名の新団員が加わりました。そのため、バンドウイルカの解体とアカネズミとタヌキの骨格標本の作製をしてもらいました。2人ともこれまでに標本作製の経験があり、完成度の高い標本ができました。今後も多くの標本作製してくれることを期待しています。

以下に最近の活動報告を掲載します。

「展示準備報告」

前回に引き続き、2016年12月18日、2017年1月15日、2月19日に標本作製作業を行いました。また、1～2月に「干支展 2017 酉～鳥たちのめざめ～」(博物館への展示協力)、「貝・甲殻類・モグラの仲間展」(樹空の森での出前展示)、2017ホネホネサミットへのブース出展(大阪)を開催するため、上記日程以外も、平日は準備で大忙しでした。

作業内容としては、除肉作業や展示用標本の作製、修復、各種骨格の写真撮影、ホームページへのアップロードなど、それぞれ分担しながら進めました。いずれの作業も、利用者が「骨を一つひとつ取出して見ることができる」、「骨一つひとつの名前がわかる」、「別の種の骨と見比べられる」、「組立式骨格と見比べられる」などの要求を実現するよう努めました。

「ホネホネサミット参加報告」

2017年2月11日(土)と12日(日)、大阪市立自然史博物館ネイチャーホールで開催された、2017ホネホネサミットに参加してきました。会場には全部で50のブースがあり、自慢の骨や、毛皮などが並べられていました。もちろん、



ホネホネサミットの駿河ほねほね団展示ブース

骨の展示が一番多く、哺乳類、爬虫類、魚類といろいろな骨が並んでいます。他にも毛皮、透明標本やウニのランプなど、面白いブースがたくさんありました。小中学生や個人参加の大学生など、世の中には、こんなにも多くの骨好きがいるのだと、驚きました。

本団体はアズマモグラとコウベモグラの展示セットの他、タヌキ・ムササビ・オオミズナギドリなどの3つの標本箱を持って行きました。これらはすべて、それぞれの骨をつなげず、骨の名称をつけて標本箱に納めています。分解整列式骨格標本と名付けた、新しい形の標本の展示の仕方です。多くの方に好評で、「こういうものが必要だったんだ」「きれい」と絶賛され今までの苦労が報われた気がしました。

そして、もう一つの目玉「骨格標本ライブラリ」。会報でもお知らせしていますが、モグラ類のうちコウベモグラ・カワネズミ・アムールハリネズミ3種の全身骨格と残り7種の頭骨がアップされています(2月にやっとここまで揃いました)。各骨は上・下・左・右・前・後6方向から撮影されていて、ネット上でそれぞれ見ることが出来ます。パソコンを使いその場で見てもらうと、これまた大好評。用意してきたQRコードの用紙は110枚全部なくなりました。出展者・来場者の骨に対する熱い思いに圧倒されっぱなしの2日間。巷にはこんなにも骨好きな人が隠れていたのかと改めて思い知らされました。ホネホネサミットの来場者数は2日間で4000人も集まり大いに盛り上がりました。